



## 早石修記念海外留学助成による留学体験記

2019年度採択者 八木田 悠一

私は2018年10月から2024年4月まで、英国・ケンブリッジにあるMRC Laboratory of Molecular Biology (MRC-LMB) のHegde研究室にて研究留学を行いました。2019年10月からの1年間は本助成による支援を賜り、充実の日々を過ごすことができました。採択の知らせを聞いた時、しばらく研究に集中できる環境が整ったことで、嬉しいと同時に少しほっとした気持ちになったことを覚えております。大変貴重な機会を与えてくださった関係者の皆様に、この場をお借りして心よりお礼申し上げます。

留学先のボスであるRamanujan S. Hegde博士（以下、Manu）のことを知ったのは大学院生の頃で、エレガントな論文と巧みな口頭発表に魅了されました。その後、日本でポスドクを経験しながらキャリアに悩んでいた時に、運良くManuに会う機会が訪れました。もともと留学願望があり、Manuのような研究者の考え方や働き方を学びたいと考えていた私は、年齢的にこれが最後のチャンスだろうと、その場の勢いで留学について相談しました。帰宅して冷静に考えると、業績的に自分が受け入れてもらえるとは思えず、年齢的な不安もあって躊躇している自分もいましたが、妻が大きく背中を押してくれました。後日、意を決して正式にお願いすると、「フェローシップが取れたら来ていいよ」という答えでした。受け入れ許可の理由は未だに謎ですが、きっと過去の日本人在籍者が良い仕事してくれたおかげではないかと思っています。

MRC-LMBは、ケンブリッジのバイオメディカルキャンパスにある研究所で、コアファシリティが充実しています。研究室間の垣根が低く、実験機器や試薬の貸し借りは日常茶飯事で、共同研究も盛んに行われています。また、様々なバックグラウンドを持つ研究者が世界中から集っており、所内のメーリングリストに質問を流すとすぐに答えが返ってきます。AlphaFold2が登場した時には、あっという間にローカルで使えるようになりました。キャンパス内には、他の研究所などもあり、研究を行う上でこれ以上ないほど充実した環境だと思います。

Hegde研究室は10名程度の規模で運営されています。多国籍で、日常の会話や様々なイベントの中で各国の文化を学ぶ機会がありました。同僚は学生も含めてみんな優秀で、真摯に研究に取り組み、協力的で、全てのプロジェクトの発展に貢献するという姿勢を持っていました。ど

こかで議論が始まると、自然とみんなが集結してきます。そんな同僚に出会い、大きな刺激を受け、自分も負けていけないと思いながら研究に取り組むことができました。Manuは、部屋のドアが空いている時に訪ねれば、いつでもディスカッションに応じてくれました。たとえたどたどしい英語でも、1伝えると10わかってくれるようなPIで、常に必要なサポートを提供してくれました。データを瞬時に理解する力や洞察力、データからメカニズムやモデルを思い描く力にはいつも驚かされました。また、学生が失敗と呼ぶ実験からも有益な情報を引き出すとする姿勢は印象的でした。研究成果の魅せ方は、一朝一夕で身につくものではありませんが、留学中にManuから学んだことを忘れることなく、今後も努力を続けていきたいと思います。なお、Manuによる「大学院の楽しみ方」や「大学院で学ぶべきこと」に関する寄稿が発表されていますので、興味のある方は是非ご一読ください (PMID: 38402006, 38402005)。

ケンブリッジは歴史を感じる町で観光地でもあります。ケンブリッジ大学や大企業、スタートアップがあり、様々な国から色んな人々が集まっています。差別などを見聞きすることはほとんどなく、外国人としても生活しやすい町だと感じました。ケンブリッジといえば、自転車（とその盗難）が多いことと、町中に放牧されている牛が名物で、牛の間を自転車ですり抜け、尻尾で叩かれながら研究所に通ったのは良い思い出です。留学中には、ブレグジットやコロナ禍、周辺国での紛争、エリザベス女王の死去など、様々な出来事がありました。英国やヨーロッパの文化・習慣を肌で感じ、日本を新たな視点で見えるようになったことは大きな財産で、今後の人生をより豊かにしてくれると思います。誤算だったのは、帯同した妻が英国生活を大変気に入り、日本への帰国を渋ったことでしょうか。

現在は、九州大学基幹教育院（併任：大学院システム生命科学府）に所属しております。担当授業では留学体験を伝える機会もあるため、若い学生の励みとなるような話をしたいと意気込んでおります。研究・教育活動を通じて、研究留学で深めた知見や経験を社会に還元し、日本の生命科学の発展に貢献できるよう精進していきたいと思っています。

（現 九州大学基幹教育院自然科学実験系部門  
[併任：大学院システム生命科学府] 助教）

※早石修記念海外留学助成について

日本生化学会では2017年度より「早石修記念海外留学助成」の募集を開始いたしました。この助成制度は、日本の生化学会に多大な貢献をされた故早石修名誉会員（2015年12月17日ご逝去）を記念して、小野薬品工業株式会社様のご寄付によって設立されたものです。助成額は1件500万円、毎年8名まで選出します。応募資格その他詳細は学会ウェブサイト（<http://www.jbsoc.or.jp/support/hayaishi>）掲載の募集要項をご覧ください。